

# 「キャンドルのつどい研修」実施要領

国立江田島青少年交流の家

## 1 内容

燃える炎を見つめながらしみじみと語り合い、歌い、踊り、ゲームを楽しみながら、華やかで感動に満ちたときを過ごす。

## 2 ねらい

- ・皆で炎を囲み、楽しみ、親睦を深める。
- ・協調性を高める。
- ・今日を反省し、明日への活力をつくる。

## 3 対象者

小学校第5学年以上とする。

ただし、保護者又は引率者と組んで活動する場合は小学校第4学年以下も可能。

## 4 研修人数及び研修場所

場所	適正人数（人）
体育館	200
講堂	150
武道館	100

※10人以上で実施可。

※いずれの場所も飲食は禁止（水分補給は可）。

## 5 実施時期・研修時間

(1) 実施時期 通年

(2) 研修時間 18時00分～21時00分

※準備作業を開始までにしておく。

※後片付けは21時30分までに行う。

## 6 準備物

(1) 個人：動きやすい服装 体育館シューズ（講堂の場合は不要） 飲み物（必要な場合）  
スタンプに使用するもの（必要な場合） 個人用燭台（アルミホイル等で作成）

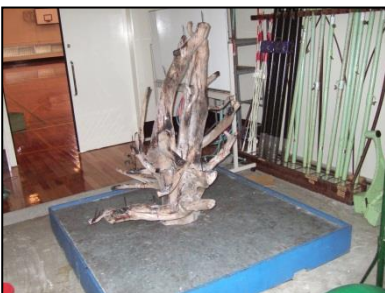
(2) 引率者：マッチ・ライター等

小ろうそく

携帯電話 救急バッグ（貸出可） 懐中電灯（武道館で実施の場合）

(3) 交流の家：コードリール ワイヤレスアンプ ワイヤレスマイク バケツ ろう削り  
大ろうそく

※各実施場所：大燭台 火の神用燭台 シート 放送設備（武道館はなし）



大燭台



火の神用燭台





ロウ削り



個人用燭台 ※小ロウソクを使用

## 7 指導・安全管理

- (1) 指導者の配置・人数・役割分担  
研修は、「キャンドルのつどい研修」プログラムをもとに、団体においてキャンドルのつどいの指導・安全管理等を行う。
- (2) 引率者の配置・人数・役割分担  
活動団体で次の役割を置く。(小規模の団体は担当を兼ねることができる)
  - ① 総括責任者 (全体の総括, 緊急時の連絡担当)・・・1人
  - ② 指導担当者 (指導, 用具の準備, 安全管理)・・・1人以上
  - ③ 監視担当者 (火の管理, 安全管理)・・・1人以上
  - ④ 救護担当者 (健康観察・応急処置・AEDの場所確認)・・・1人以上
- (3) 事故発生時の措置  
緊急の場合は、総括責任者は携帯電話等で交流の家に連絡を行う。

## 8 展開

- (1) 「物品利用希望書」の提出  
団体は、「物品利用希望書」に必要事項を記入し、入所時に交流の家へ提出する。
- (2) 実施前
  - ① 指導担当者は、17時00分までに事務室から必要に応じてコードリール、ワイヤレスアンプ、ワイヤレスマイク、バケツ等を受け取る。
  - ② 実施場所のコンセント等の確認をする。
  - ③ 実施場所にシートを敷き、大燭台の設置を行う。(別紙「参考資料」参照。大燭台は重いので注意。)
  - ④ 大燭台に大ロウソクを立てる。(ロウソクが短くなっている場合は事務室で長いロウソクに交換する。)
  - ⑤ 火の神用燭台に大ロウソクを立てる。  
※個人用の燭台・小ロウソクは、団体で用意・持参する。  
※個人用燭台は、アルミホイル等を用いて自作する。(ロウが垂れ落ちない形状のものであれば、市販のものでもよい)。  
※小ロウソクは、ボランティア棟1F売店(インダスポーツ)でも販売している。(1箱約200本入り:630円)
- (3) 事前指導  
集合場所: 体育館、講堂で実施の場合・・・各実施場所  
武道館で実施の場合・・・つどいの広場(ピロティ)  
(指導担当者)
  - ① グループ毎に整列させる。
  - ② 救護担当者に健康観察をさせる。

(4) 指導担当者は目的、注意事項を説明する。

〈注意事項〉

- ① けがや体調不良の場合は引率者に申し出る。
- ② 火の取り扱いには十分に注意し、火を人に近づけるなど危険なことをしない。
- ③ シートや床にロウを垂らさないよう注意する。
- ④ 武道館への移動は、暗いので足元（特に側溝）に気をつける。

(5) 進行例

第1部

- ① 入場
- ② 歌「遠き山に日は落ちて」
- ③ 火の神入場→火の神の言葉→点火
- ④ 歌「四季の歌」
- ⑤ 営火長のことば（火にまつわる話）

第2部

歌、スタンプ、ゲームなどで盛り上がる

第3部

- ① 歌「一日の終わり」
- ② 沈黙（静かに火を見つめる）
- ③ 誓いの言葉（各班代表、各クラス代表など）
- ④ 営火長終わりの言葉
- ⑤ 歌「今日の日はさようなら」
- ⑥ 退場

※監視担当者は大燭台のロウソクの火が消えたらつける。

(6) 事後指導

(指導担当者)

- ① 救護担当者に健康観察をさせる。
- ② 活動のまとめをし、解散させる。
- ③ キャンドルのつどいの研修終了を交流の家へ報告するとともに、借用物品の返却をする。

※物品の破損等が見られる場合は、その顛末を速やかに交流の家に届け出る。

(7) 片付け

監視担当者は次の方法で片づけを行う。

- ① ロウソクを消火した後は、水をためたバケツの中に入れ、完全に消火する。  
(完全に消火したら水を切り、小ロウソクは持ち帰る。大ロウソクは所定の場所へ片付ける。)
- ② 床及びシートに落ちたロウをロウ削りでとる。
- ③ シート、大燭台、火の神用燭台、ロウ削り、大ロウソクを所定の場所へ片付ける。

※他の会場から個人用燭台を移動させた場合、元の場所に返却しておく。

- ④ 会場の床をモップがけする等、清掃を行う。

## 9 連絡先

国立江田島青少年交流の家 TEL 0823-42-0660 (代表)

TEL 0823-42-0661 (プログラム担当係)

TEL 0823-42-0663 (夜間)